「仕事をもっと楽にしたい」
活動を見直し社内システム構築

【みなさんこんにちは】

東京の板橋区で代理店をしております株式会社一期（いちご）保険事務所の石井裕二と申します。89年に大手損保の研修生としてこの業界に入りました。歴代の先輩方には、ちょうど介護費用保険が発売された頃と言った方が年代のイメージはわきやすいでしょうか。早いもので、その当時に介護費用保険をご契約下さったお客様が、保険料の払済み期間到来という年齢になっています。「20年も保険料を払うのか。まだまだ長いな」などと笑ってご契約をいただいたのを思い出します。10年ひと昔と考えると諸先輩方々の歴戦はすさまじいものと痛感します。

【じたばたしてもいいじゃないか】

私ごとですが代理店として看板を出した頃のお話です（まだ、私と妻の2人だけの事務所でした）。収保も増え、いよいよ代理店としての色（特徴）を創る時期と感じました。ところがなかなか思いを実行することができません。なぜかジタバタと仕事に追われるだけです。「もっと楽にならないか」と思いつつ毎月同じことの繰り返しに疑問を持ちました。

そこで、自らの活動サイクルを記録し整理してみました。すると、いかに無計画だったか見えてきます。保険会社から更改申込書が届くと、思いつくままお客様に連絡して見境なく営業という理由を正当化して日々動き回っているのです。気がつくと先手で行うべき業務がおざなりになってしまい、結果お客様へのアクションが後手に回っていました。明後日が満期のお客様に、「どう言い訳して連絡しようか？」なんて、お客様の立場で考えると申し訳の立たないことともありました。

さて前述の活動スケジュールを振り返ると、実に簡単に「楽にするためのヒント」が見つかるものです。私の活動はひと塊（かたまり）に集約することができるのです。代理店は保険会社の商品を販売している以上、保険会社のスケジュールに大きく依存していますから、活動に周期があることは当然といえば当然ですが、それを慣れと勘で実行していたのです。

ではその塊（かたまり）をどのように実行していくかが次の問題ですが、これも簡単でした。毎月の活動のスタートを明確にしてしまうことです。スタートを決めると業務の塊（かたまり）をより効率よく分解することができます。しかし私たち代理店は1か月完結の周期ではありません。翌月の更改、また翌々月の更改と、重なり合う3か月周期で追っかけます。そこで社内のシステム構築（活動のフロー図のようなもの）が必要となります。現在ICHIGO SYSTEM（いちご・システム）として他の代理店さんにもご利用いただいていますが、この実務を現実化するための社内システムが弊社の業務フローを大きく形成することになります。このシステム開発の発端が「楽にしたい」という思いの構築ですのでいまさらに笑ってしまいます。

整理ができない書類・情報の山

【悩まされる情報の整理】

書類との格闘が多いのは保険代理店に限ったことではありませんが、ことさら無形の「契約」を取り扱う代理店である以上、書類の手配や整理整頓は仕方がありません。とはいえ、とにかく書類の処理に悩まされます。放っておくとすぐに机の周りが書類の山となります。これが全て契約の申込書類ならありがたいことなのですが、そのほとんどがすぐにゴミ化するものばかりだから困ったものです。

保険会社は電子化によるペーパーレス化が整いつつありますが、代理店のレス化はまだまだです。逆に紙の浪費においては増えたような気もします。

一度目を通すともう二度と見ないだろう。しかし、もしかしたらまた必要となるかもしれない…といった、捨てるに捨てられない情報の山です。保険会社は徹底したハンドブックやマニュアルを提供してくれます。これが至れり尽くせりのマニュアルでありがたい半面、弊社のような狭い事務所は室内がすぐに書庫化してしまいます。パソコンで参照する電子マニュアルより冊子のマニュアルの方が見開いて調べられるため重宝するから文句もいえません。

事務所の書類整理一つをとっても情報の整理ができていない証拠でしょう。非効率的な内部では様々な欠点があるものです。次回、弊社の情けない風景などもご紹介させていただきたく思います。

・・・ん。

≪1≫

「ほけん」「あんしん」「50音締了の“ん”」

株式会社一期（いちご）保険事務所
代表取締役　石井 裕二
HP▶http://homepage2.nifty.com/ichigo/

地域密着代理店の

一期一会〔4〕

株式会社ライフデザイン
代表取締役　福井 雅人
■ライフデザインHP　http://hoken-f.com/
■福井FPブログ　http://ameblo.jp/life5565/

新年あけましておめでとうございます。ライフデザインの福井です。

新年を迎えると手帳に「今年の目標」を書くことが正月の恒例行事となっています。

家族や自分自身のこと、そして会社の具体的な目標数字などをいくつか書いています。

しかし、今年は少し勝手が違いました。昨年、携帯電話をiPhoneに変更したのと同時に手帳もiPhoneに書き込んでいます。そのため今年の目標はiPhoneにメモ書きしましたが、本来は新年の目標くらいは手書きで心を込めて書きたいものです。

iPhoneを使用して数か月になりますが、これまでの紙の手帳と違い、とても安心で便利な道具であることを日々、実感しています。

万が一、紛失した場合にmobile meのGPS機能によりiPhoneを探すことができます。またパソコンからの遠隔操作により、パスワードロックやデータ内容を消去することも可能です。

毎年「今年の目標」を手帳に
今年はiPhoneに書き込む

で個人情報の流出などに対応しています。

手帳の内容はGoogleカレンダーに同期させていますので、紛失した場合も行動スケジュールがパソコンで確認できるため安心です。また1年更新の手帳と違い数年先の行動も記入することができるので、特に生命保険販売をされる方の満期や行動管理としても大変便利なツールになります。

常日頃、お客様にリスクについて提案している我々、保険代理店にとっては手帳の情報リスク管理はとても大切なことだと思っています。

現代人のカルテ

知っておきたい「病」の話

社会医学環境衛生研究所所長　谷 康平

206

出生数はピーク時の4割に

2011年あけましておめでとうございます。と、当たり前のように「2011年」と言っていますが、正確には「西暦紀元2011年」というべきで、日本固有の「平成23年」や「皇紀（天皇紀元）2671年」、韓国では「壇君暦4344年」や「仏暦2554年」や北朝鮮では「主体暦100年」、台湾では「明国暦100年」があり、そしてイスラム諸国では今年はイスラム暦1432年なのです。

五大紙のなかではサンケイ新聞のみが今でも平成23年（2011年）の表記をしていますが、他は2011年（平成23年）となって、そのうちに平成〇〇年が消えてしまうのではとさえ思えるほどに、日本では「グローバル・スタンダード」に振り回されているようです。

さて、恒例の「人口動態統計の年間推計」が大晦日に発表されました。平成22年1年間の①出産②死亡③死産④婚姻離婚についての数字を太平洋戦争後に限って言うと、①出生107万1000人は、昭和24年（1949年）の270万人をピークとした第一次ベビーブームの頃の約40％まで減少してきています。昭和41年（1966年）のあの丙午の136万1000人と比べても、約20万人少ないという異常事態になっています。

この状況が続くので（続けば、ではありません）いずれすべての産業で、その対象となる顧客が（学校であれば生徒・学生たち）減少、いや激減するのは必至です。（ただし、高齢者対象の産業は当分は上昇傾向です）

初めて出生数150万人を割ったのが（上記の丙午年を除いて）、昭和59（1984）年、その2年後140万台割れ、3年後130万台割れ、平成5（1993）年に120万台割れ、その後120万台前半から110万台後半を推移して、ついに平成17（2005）年110万を切ってしまったのです。

近い将来、100万を割る日が訪れるのは火を見るより明らかなのです。マヤの伝説によると、2012年12月に地球に大いなる災いがもたらされると伝えられていますが、日本の人口減少による災いは100％襲ってくるのです。

人口減少による災いは確実に
悪しき生活習慣が多くの病気誘発

ちなみに死亡については、第1位は悪性新生物（いわゆる、がん）で、35・2万人（前年比8000人増、全体の29・5％）、第2位は心疾患で18・9万人（同8000人増、同15・8％）、そして第3位は脳血管疾患（いわゆる脳卒中）で12・3万人（同1000人増、同10・3％）となっています。

わずか30年前の昭和55（1980）年、第1位脳血管疾患（16・2万人）、第2位悪性新生物（16・2万人）でほぼ拮抗していたことを考えますと、医学の発達、医療器具の開発、改良があまり意味をなしていないかのように思われるほどです。

過去に何度となく書いたことですが、日本人の死亡原因はかつての急性の感染症から、慢性の生活習慣病にシフトしています。即ち、生活習慣を良いものにすれば、発生しにくい病気が死因の上位を占めているのですから、①食事②喫煙③飲酒④運動、ストレス発散⑤休養・睡眠をもう一度見直すことが何よりの予防、そして早期発見につながるのではないでしょうか。

とはいえ体によろしくないと分かっていてもタバコを吸ったり、大量に酒を飲んだりすることもストレスの解消になるわけで、口で言うほど簡単にできるわけではありませんが、新たな年を迎えて一応（？）気づくことがあれば、少しでも良い習慣を目指したいと自分に言い聞かせながら、新年のご挨拶に代えたいと思います。今年もよろしくお願い致します。

新たな年、良い生活習慣を目指そう